

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

| | |
|-----------------|---|
| 1. 事故・ヒヤリハットの別 | ヒヤリハット |
| 2. 体験した事例の名称 | 三連梯子の操作訓練中に転倒しかけた事例 |
| 3. 体験した事例の中心的要素 | 三連梯子を全伸長して壁に架梯し、階上への進入訓練中、出動指令が示され上下の確保隊員が持場を離れた際、強めの風が吹いて梯子が揺らぎ転倒しかけたところを、たまたま近くにいた隊員が気づき、梯子に駆け寄って確保、転倒をまぬがれたもの。なお転倒方向には消防車が停車しており、転倒していれば接触し、梯子及び消防車共に破損する可能性が顕著であった。 |
| 4. 体験した事例の原因・理由 | 全伸長した三連梯子は非常に不安定で、確保は絶対に欠かせないものである。にもかかわらず、出動指令に気を取られ、確保を疎かにしたことに原因があると断定する。 |

【体験した事例の直接的な原因について】

| | |
|------------------|-----------------|
| 1. 体験した事例の直接的な原因 | 行動の意志決定に問題があった。 |
|------------------|-----------------|

【体験した事例について】

| | |
|----------------------------------|--------------------------|
| 1. 発生日時 | 平成22年8月10日 午後2時頃 |
| 2. 発生した当時の天候 | 晴れ |
| 3. 発生した活動現場 | 屋外：訓練塔 |
| 4. 体験した事例の種類 | 回答者が、他人を負傷させそうになった。 |
| 5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度) | 重傷の怪我をしていた(させていた)だろう |
| 6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか) | 転倒、その他:高額な資機材の破損 |
| 7. 事例体験時の活動 | 演習訓練、[その他:火災に伴う要救助者救助訓練] |
| 8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか | その他：火災:ポンプ隊訓練、救助:高所救助訓練 |
| 9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。 | 初めて体験した |

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）



| | |
|-------------------|---|
| ○当事者A | 年齢[46]歳、勤続年数[22]年、現場経験年数[18]年、階級[消防司令補] 同様の活動 [頻繁]、任務 [複数隊の隊長] |
| ○当事者B | 年齢[21]歳、勤続年数[3]年、現場経験年数[3]年、階級[消防士] 同様の活動 [頻繁]、任務 [隊員] |
| ○当事者C | 年齢[22]歳、勤続年数[4]年、現場経験年数[4]年、階級[消防士] 同様の活動 [頻繁]、任務 [隊員] |
| ○その他(当事者が4人以上の場合) | |

11. 事例発生の経過。



| | 誰が(何が) | なにをした | その他・備考など |
|------|--------|---|----------|
| 経過1 | A | 指揮者として、階上に逃げ遅れた救助者を救助するという想定を部下に下命した | |
| 経過2 | B,Cその他 | Aの下命を受け、階上に三連梯子を架梯後、隊員1名が先行進入する | |
| 経過3 | B | 階上に進入後、梯子の確保準備のため小綱を準備中であつた | |
| 経過4 | C | 階下で身体確保を行っていた。 | |
| 経過5 | その他 | ホース延長を行うとともに、救助資材の準備中であつた | |
| 経過6 | A | 出動指令が示され、各隊員に準備を下命する | |
| 経過7 | B | 出動隊員のため、確保を取りやめ急いで階下に駆け下りた | |
| 経過8 | C | 出動隊員のため、確保をやめ出動車両に向かった。 | |
| 経過9 | その他 | 出動除外隊員のひとりが、何気なく上方を見ると、三連梯子の上方が壁に沿って傾き始めたのを発見、転倒すると確信し梯子の確保を行う。 | |
| 経過10 | | | |
| 経過11 | | | |
| 経過12 | | | |

【その事例発生時の状況について】



- 事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思ふか？
- ヒヤリハットの場合 : ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思ふか？

避難退避がうまくいった。周囲の視界が確保できていた。たまたま、事故にならなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

| | |
|---------------------------------------|-----|
| ・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。 | はい |
| ・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。 | いいえ |
| ・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。 | いいえ |

b. 注意力が欠如していた

| | |
|---------------------------------|-----|
| ・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。 | はい |
| ・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。 | いいえ |
| ・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。 | いいえ |

c. 経験・知識が不足していた。

| | |
|----------------------------|-----|
| ・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。 | いいえ |
| ・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。 | はい |
| ・活動に対する経験が不足していた。 | いいえ |

d. 心身の不調があった。

| | |
|-----------|-----|
| ・体調が悪かった。 | いいえ |
| ・悩み事があった。 | いいえ |

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

| | |
|----------------------|-----|
| ・装備・資機材自体に問題があった。 | いいえ |
| ・装備・資機材の使用 방법이誤っていた。 | はい |
| ・装備・資機材の対処能力を超えていた。 | いいえ |
| ・必要とする装備・資機材がなかった。 | いいえ |

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

| | |
|---------------------------------|-----|
| ・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。 | いいえ |
| ・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。 | いいえ |

g. 行動しにくい環境だった。

| | |
|------------------|-----|
| ・狭い場所であった。 | いいえ |
| ・暑かった(寒かった)。 | いいえ |
| ・野次馬が多かった。 | いいえ |
| ・現場周辺の地理に不案内だった。 | いいえ |

h. 足場が悪かった。

| | |
|------------------|-----|
| ・足元が躓いたり滑りやすかった。 | いいえ |
| ・足元の強度が不足していた。 | いいえ |

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

| | |
|-------------------------------------|-----|
| ・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。) | いいえ |
| ・指示内容に誤り・偏りがあった。 | いいえ |
| ・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。) | いいえ |

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

| | |
|----------------|-----|
| ・隊員の連携が不十分だった。 | はい |
| ・隊員が不足していた。 | いいえ |

○その他

l. その他の理由があった。

| |
|--|
| 出動指令を受け、出動準備に気を取られ、架梯中の梯子の不安定性を失念していた。 |
|--|

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

